# 見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち

September 2026 vol.149

## ◆祐泉寺（ゆうせんじ）

所在地：岐阜県美濃加茂市太田本町

交　通：JR 高山本線「美濃太田」駅 南西 約 900m

9.28 豪雨災害は、昭和 58(1983) 年 9 月 27 日から 28 日にかけて、台風第 10 号の影響によりもたらされた記録的な豪雨により発生した大規模水害で、木曽川流域では観測史上最大級の出水となりました。岐阜県における被害は美濃加茂市や坂祝（さかほぎ）町、可児市を中心に各地に及び、広範囲で浸水被害が発生しました。木曽川の氾濫により市街地や農地が冠水し、美濃加茂市では総世帯数の約 15%、坂祝町では約 12%が被災、浸水面積は両市町で約 290ha、被害総額は約 218 億円に達しました。被害は流域全体へ広がり、岐阜県の被害額は約 527 億円に及んでいます。愛知県においても、名古屋市や瀬戸市などで、1 時間雨量 70mm を超える激しい雨により、広範囲に浸水被害が発生し、道路の冠水や住宅の浸水、交通機関への影響が生じました。

台風 10 号の北上とともに活発化した秋雨前線により降雨が続いた美濃加茂市では、28 日の夕方頃から浸水が始まりました。その後、夜半にかけて、河川水位の急激な上昇に伴って家々の 2 階にまで泥水が到達するなど浸水が拡大し、29 日未明に最大となりました。木曽川の水位上昇とともに、28 日午後 7 時過ぎには避難命令が発令され、広報車の呼びかけとともに地域住民の避難が始まりました。美濃加茂市では 1,500 名にも及ぶ市民の避難が行われる中、1 名が逃げ遅れ、この災害での唯一の犠牲者となりました。このように、夜間の急激な増水により避難が困難であったことも、被害が拡大した要因となっています。

災害を契機に、再度の浸水から守るため、木曽川流域では激甚災害対策特別緊急事業が実施されました。事業では、木曽川堤防の大幅なかさ上げ、護岸のコンクリート化、樋門・排水施設の整備などが進められ、美濃加茂市から坂祝町にかけて、約 5km にわたり堤防の改修が行われています。

木曽川の堤防沿いに位置する祐泉寺では、当時はまだ堤防が整備されていなかったこともあり、床上浸水が発生し、本堂の柱が水に浸かりました。後世への教訓として、現在でも寺の本堂の柱には浸水位の表示が残されています。

美濃加茂市内には、4m 近い浸水となった市役所や中央体育館、木曽川近くに位置する太田小学校など、各地に当時の浸水深を表した石碑が残されています。また、美濃加茂市民ミュージアム（裏面参照）には、当時の写真や水に浸かった書類などが展示されています。豪雨災害を教訓に、市民ミュージアムには、市役所が浸水被害を受けた場合に臨時の災害対策本部が設置できるようになっています。



（左）祐泉寺の浸水位表示（中）美濃加茂市役所の浸水碑（右）太田小学校の浸水碑
写真提供（3 枚共）：　（一社）中部地域づくり協会

災と Seeing（27）9.28 豪雨災害（http://www.cck-chubusaigai.jp/sai_seeing/detail_27.html）もぜひ併せてご覧ください。







◆災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していただくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

## ◆見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち バックナンバーから

### ● 大島八幡社 (vol.10,2015.2)

所在地：西尾市吉良町大島
交　通：名鉄西尾線「吉良吉田」駅 西 約 2.5km

矢作川は、長野県の木曽山脈に発し、愛知県の西三河地方を大きく蛇行しながら、三河湾へと注ぐ大河であり、古くは御川（みかわ）とも呼ばれていました。「御川」とは「美川」の意であり、「三河国」の地名も矢作川の流れる地域を指して付けられたものといわれています。

この矢作川は、もともとは現在の矢作古川の場所が本流でしたが、徳川家康の命による治水工事により、矢作新川が掘削され、現在の矢作川が本流となり、旧河道が矢作古川と呼ばれるようになりました。

岡崎平野を中心に平野のイメージが強い西三河の三河湾周辺地域ですが、地形図を見ると低地は矢作川及び矢作古川河道沿いが中心で、大部分が台地や丘陵地、山地となっており、明治用水を始めとする用水が整備されています。

この矢作古川の下流に大島八幡社があります。かつての矢作川だった矢作古川の流域は、上流部から運ばれた土砂による沖積平野が発達した低地で、高潮や台風の影響を受けやすい地域であり、下流に位置する大島八幡社は、たびたび高潮や台風の影響を受けてきました。境内には明治 22 年高潮、昭和 28 年 13 号台風の際の浸水深を示す浸水標が建てられています。

また、地震による津波でも被害が発生してきた場所で、嘉永 7(1854) 年安政東海・南海地震では「八幡社社殿や浄泉院の庫裏、村の家屋 54 軒などが倒壊し、大津波が押し寄せた／藩主から見舞金が下された」ことなどが、八幡社所蔵の棟札に記されています。



◆詳細は、見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち vol.10（https://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/rekishijishin/geppo.html）をご覧ください。

## ★ 太田宿中山道まつり

太田宿中山道まつりは、美濃加茂市の中山道太田宿界隈で毎年 10 月下旬に開催される秋の風物詩で、市民の手で作り上げる「おん祭 MINOKAMO」の一環として親しまれています。（2026 年は 10 月 25 日（日））

見どころは、江戸時代の歴史絵巻を再現した「姫道中」の時代行列です。14 代将軍徳川家茂に嫁いだ皇女和宮を中心に、歴代の将軍に降嫁した 6 人のお姫様や武士などに扮した 100 人以上の華やかな行列が、情緒ある宿場町を練り歩きます。会場では、鉄砲隊による火縄銃の演舞や和太鼓演奏などのステージイベントも行われます。地域のグルメや特産品が並ぶ「楽市楽座（マルシェ）」、子ども向けの体験コーナーも充実しており、江戸時代へタイムスリップした気持ちで楽しむことができます。



美濃加茂市観光協会 HP より

### ～宿場町を巡る～

太田宿は中山道 51 番目の宿場町で、木曽川を渡る難所「太田の渡し」を控えた交通の要衝でした。敵の侵入を防ぐために街道を直角に曲げた「枡形」が現在も残るなど、江戸時代の面影が色濃く残っています。国の重要文化財・旧太田脇本陣林家住宅は、当時の遺構をそのまま留める中山道唯一の脇本陣であり、貴重な遺構となっています。



Photo AC より

### ●ブレイクタイム●

#### ♪ 美濃加茂市民ミュージアム

美濃加茂市民ミュージアムは、みのかも文化の森にある地域総合博物館で、展示棟や学習棟からなる本館、昭和 30 年代の養蚕民家を復元した「生活体験館（まゆの家）」、宿泊可能なアトリエ棟などからなる体験型施設です。常設展示室では、可児地方で化石が多く発見されているサイ（カニサイ）の模型や、木曽川のいかだ流しに関する資料などが紹介されています。敷地内には周囲を一望できる森のタワーやミュージアムカフェも併設されており、文化交流拠点として親しまれています。



美濃加茂市観光協会 HP より

◆ この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆ この地域の歴史災害記録をオンラインツアー形式、マップ形式で紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『災と Seeing』のホームページ（https://www.saitoseeing2020.jp/）をぜひご覧ください。

（発行：減斎の会・名古屋大学減災連携研究センター　2026 年 9 月）